



# 2018年 ノース場ホッケ新規加入量調査速報(2)

- ・ CPUE（11月）は過去13年中5番目に高い
- ・ 平均体長（11月）は2009～2017年の平均と比べ大きい
- ・ 計量魚探調査で見られた魚群数は5年平均より少ない

稚内水試では、毎年10月と11月の2回、稚内ノース場海域（図1）において、試験調査船北洋丸により、着底トロール調査（原則6回曳網）と計量魚群探知機調査を実施しており、それらの調査結果から総合的にロウソクボッケ（0歳魚）の資源豊度を推定しています。

今回は、2018年11月6～7日に実施した第2回調査の結果を報告します。

## 1. 着底トロール調査の結果（2018年11月）

- ・ 0歳魚CPUE（曳網1マイルあたり採集量）は136.1kg/nmiで、2006年以降の13年間で5番目に高い値でした（表1）。
  - ・ 0歳魚の平均体長は約217mmで、2009～2017年の平均（215.4mm）を上回りました（図2）。
- この調査で0歳魚の平均体長が小さかった年級群は資源豊度が高い傾向があります（図3, 4）。

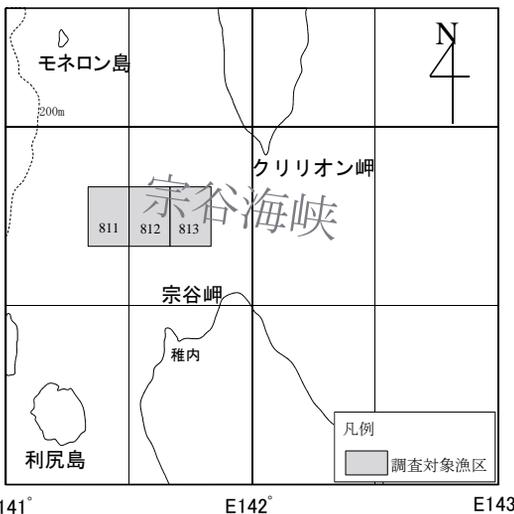


図1 調査海域

表1 着底トロールにおける0歳魚CPUE (kg/nmi)

調査年	10月	11月
2006	0.1	312.6
2007	213.6	121.5
2008	18.4	794.9
2009	107.6	218.4
2010	0.1	6.8
2011	7.1	8.4
2012	3.3	50.4
2013	75.0	10.2
2014	0.7	30.4
2015	5.1	59.1
2016	0	2.4
2017	155.7	217.4
2018	3.6	<b>136.1</b>

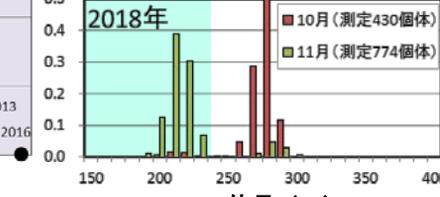
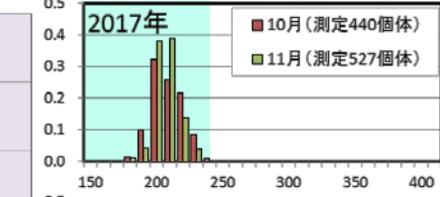
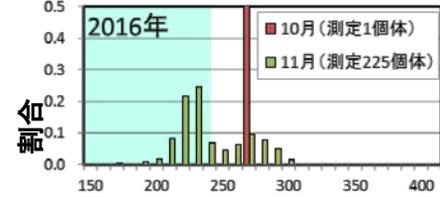
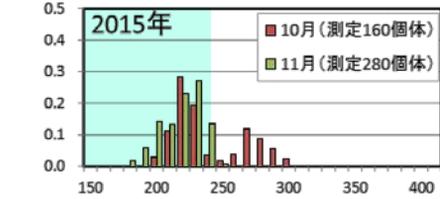
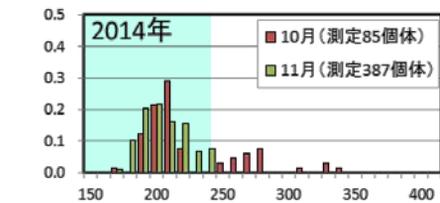


図2. トロール採集物の体長組成（網掛け部分は0歳魚）

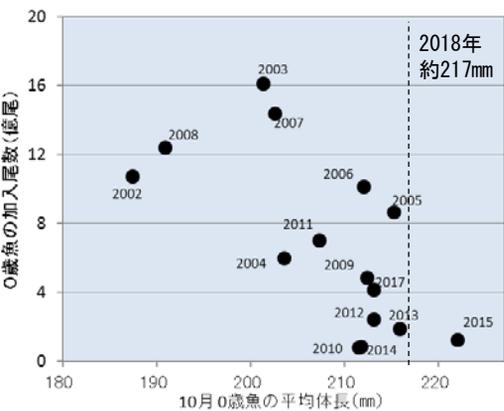


図3 0歳魚の平均体長（10月）と加入尾数の関係

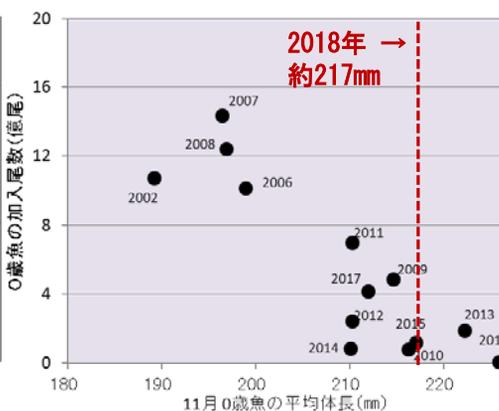


図4 0歳魚の平均体長（11月）と加入尾数の関係

## 2. 計量魚群探知機調査の結果（2018年11月）

魚探調査ライン（図5）におけるホッケの魚群数※は合計9個となり、魚探調査を開始した2013年から2017年までの5年平均（22個）を下回りました。なお、10月も本調査と同様の水準でした（図6, 7）。

※魚探の低周波と高周波に映るそれぞれの特性の違いを利用するほか、トロール調査時の魚探反応も参考にして、ホッケ魚群を視覚的に抽出しています。

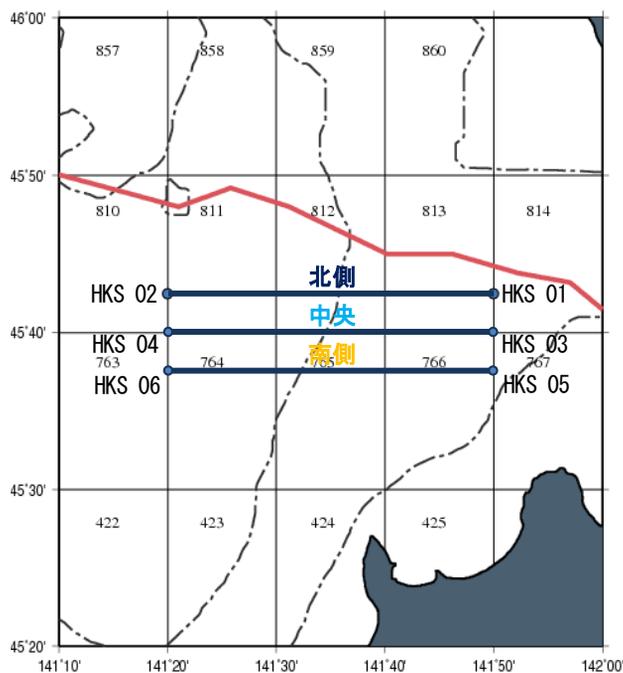


図5 魚探調査ラインの位置  
（合計航走距離：約63マイル）

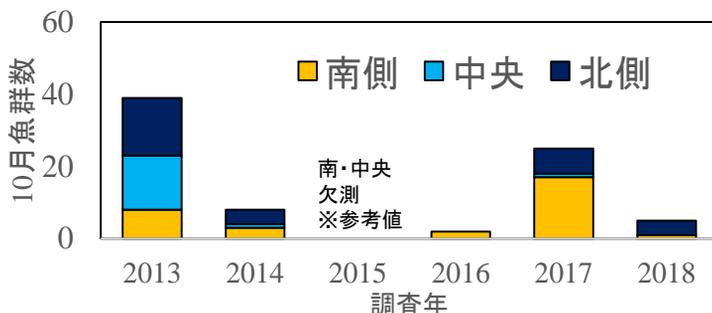


図6 調査ラインごとの魚群数（10月）

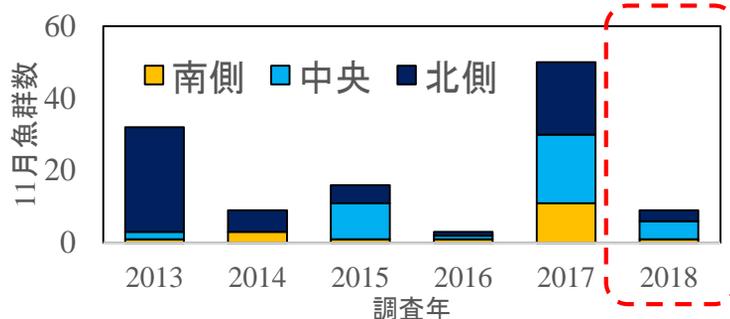


図7 調査ラインごとの魚群数（11月暫定値）

## まとめ

- トロール調査で採集された0歳魚のCPUEは比較的高かった一方、平均体長および魚群数から、**2018年生まれの豊度は低水準**であると推定されます。ただし、2016年生まれのような極度の低水準ではないと考えられます。
- 道北海域のホッケは約2年で再生産を行ないませんが、2010年生まれの不振以降、偶数年生まれの加入が不振となる傾向があります。
- 2017年生まれが比較的高豊度で加入し今年的好漁を支えてきましたが、後続の2018年生まれの豊度が低いとみられることから、資源の回復に向けて引き続き管理の取り組みが必要と考えられます。

過去の報告結果はこちらから参照頂けます

<http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/wakkanai/section/zoushoku/f1hig4000000h4n.html>